

平成22年度 土木鋼構造診断士・診断士補  
資格試験実施にあたって

社団法人 日本鋼構造協会  
土木鋼構造診断士・診断士補試験委員会

JSSC

土木鋼構造診断士、診断士補とは？

土木鋼構造物とは？

土木鋼構造物 その1



土木鋼構造物 その2



土木鋼構造物 その3



## 土木鋼構造物 その4



鋼構造物(鉄塔)



鋼構造物(港湾)



鋼構造物(パイプライン)



鋼構造物(風力発電)

## 土木鋼構造診断士・診断士補が必要な背景

我が国は、社会基盤施設(Infrastructure)の膨大なストックを保有しています。また、これら社会基盤施設は、急速に高齢化が進んでいます。国内外の現状は、米国・ミネアポリスの落橋やトラス橋の部材破断など数多くの事故が発生し、安全が危惧される状況です。

このような実態において住民や利用者は、安全・安心な生活を確保するために社会基盤施設を常に健全な状態に保つことを強く求めています。

## 土木鋼構造診断士、診断士補？



## 土木構造診断士・診断士補とは？

### □ 土木構造診断士

土木鋼構造物に関する幅広い知見と経験を有し、様々な劣化・損傷に対し、適切な点検、診断、対策の立案、指導等ができる専門技術者

### □ 土木構造診断士補

土木鋼構造物の点検、検査等及び診断士の補佐的業務を適切に行うことができる専門技術者

## 土木鋼構造診断士・診断士補試験の概要

## 試験実施内容と試験時間

## 土木鋼構造診断士・診断士補試験

資格試験は、以下の内容で行います。

- ◆ 診断士試験：  
択一式問題、  
業務経験記述問題及び専門記述問題
- ◆ 診断士補試験：  
択一式問題

種 別	土木鋼構造診断士・診断士補	
会 場 名	東 京・関 西	
試 験 時 間	試験説明	9時45分～
	択一式試験	10時00分～ 12時00分
	業務経験 論文記述	13時15分～ 14時45分
	専門論文記述	15時15分～ 16時45分

## 各試験の出題内容

## 試験問題の概要

- ◆ 試験問題は、本講義及びテキストを基本に出題します。なお、必要な基礎知識の保有度を評定するため、テキスト外からも出題します。
- ◆ 参考図書：
  1. 「土木鋼構造物の点検・診断・対策技術」  
第1章～第11章全てから出題
  2. 鋼材、鋼構造関係等の文献、資料等

## 試験の問題数

- ◆ 四肢択一式 : 50問出題(全問回答)
- ◆ 業務経験論文: 記述式(2業務について)  
600字×4枚(2400字以内)
- ◆ 専門論文 : 記述式  
(A:文章題3、B:語句説明5)  
600字×2枚×2種類

## 試験内容(択一):120分(50問)

四肢択一式の出題内容:

土木鋼構造の材料、力学、構造、製作・施工、維持管理、寿命、点検、診断、対策(補修、補強、長寿命化等)、更新、マネジメント、各種の土木鋼構造物等に関する種々な技術的な知識について出題します。

## 試験内容及び評定(論文):90分

### 業務経験論文(2業務について)

これまでの業務体験に基づき、土木鋼構造診断士として相応しい経験について記述した内容から、課題の抽出、課題の整理、課題の解決法等を確認し、論理性、表現力等を定量的に評定します。

記述は、**2,000字～2400字**の文字数が必要です。

## 業務経験記述の注意事項

- ◆既設土木鋼構造物を対象とした、鋼構造診断士として相応しい経験の記述が必要です。
- ◆本業務経験記述で求めているのは、既設鋼構造物に関する貴方自身の経験内容です。
- ◆新設鋼構造物を対象した経験論文は、減点の対象とします。

## 試験内容及び評定 (専門記述 A 及び B):90分

### 専門記述:問題A(文章題)

土木鋼構造診断士として必要な学術的、専門的知識の基礎的な分野、点検及び健全度、対策等の分野から出題し、記述された内容について評定します。

1. 文章題(問題 A)は、3題出題します。

その内、**1題**を選択し、解答します。

記述は、**900字～1,200字**の文字数が必要です。

## 試験内容(専門記述 A 及び B):90分

### 専門記述:問題B(語句説明)

2. 文章題(問題B)は、専門記述Aと同様の分野から出題し、記述したそれぞれについて評定します。

記述は、5題出題し、**2題選択**、回答します。

なお、**1題当たり400字～600字**の文字数が必要です。

**必ず、2題選択しなければなりません。**

## 専門記述についての注意事項

1. 文章題(問題A)の記述は、**1題**を選択。

**900字～1,200字**の記述が必要です。

2. 専門記述は、**2題**を選択。

記述は、**1題400字～600字**が必要です。

**注:字数が最低を下回る、最大を超える場合は、失格とします。**

## 試験実施日時及び場所等

## 土木鋼構造診断士・診断士補 試験日時

- 試験日 — 2010年10月17日(日曜日)
- 試験時間 — 10時00分開始  
16時45分終了  
\*ただし、診断士補は、12時00分終了

平成22年度・土木鋼構造診断士・診断士補試験受験者

### ◆平成22年度・受験予定者数

	東京会場 (法政大学)	関西会場 (関西大学)	合計
受験者数	250名	250名	500名

## 試験会場

- ◆東京会場:  
法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎  
千代田区富士見2-17-1
- ◆関西会場:  
関西大学千里山キャンパス 第4学舎3号館  
大阪府吹田市山手町3-3-35

## 試験会場での注意事項

## 注意事項 1

- ◆土木鋼構造診断士、診断士補の試験集合時間は、9時30分です。午後の各試験は、説明開始時刻の5分前に必ず自席に着席してください。
- ◆試験開始時刻、入・退席可能時刻は、決められています。
- ◆試験開始時刻は、午前10時00分です。
- ◆止むを得ない事情で試験入室に間に合わない場合でも入室は、午前10時30分までです。

## 注意事項 2

- ◆択一試験における途中退席は、午前10時45分以降可能となります。
- ◆また、試験の途中退席は、午前11時45分以降は出来ません。
- ◆業務経験記述試験及び専門記述試験の場合も同様で、試験開始後30分までは入室可能で、退室可能は、開始後45分以降とし、終了前15分以降の退席が出来ません。

### 注意事項 3

- ◆机の上には、受験票、HBの鉛筆、プラスチック消しゴム以外は、出せません。
- ◆会場に持ち込める時計は、「計時機能」だけのものに限りです。また、携帯電話は、時計として使用できません。
- ◆携帯電話の使用は、禁止します。

### 注意事項 4

- ◆計算問題は、全て手計算で行います。
- ◆計算機関係は、一切使用できません。
- ◆試験問題は、試験終了時に持ち帰ることができます。途中で退出する場合は、持ち出すことはできません。
- ◆試験時間中の離席は、試験監督員の許可を得なければなりません。

### 注意事項 5

- ◆試験監督員の指示に従わない方は、退室していただきます。
- ◆試験中の飲食は、禁止します。
- ◆試験会場内は、全て駐車禁止です。
- ◆キャンパス内は、指定場所を除き禁煙です。喫煙は、指定場所のみとなります。

### 注意事項 6

試験当日、試験会場(大学)への電話はできません。

緊急時は、以下に連絡してください。

緊急時連絡先:

関東事務局携帯 090-4525-4084

関西事務局携帯 090-8014-4697

### 試験実施、資格認定の流れ

### 試験実施、資格認定の日程

- ◆筆記試験:平成22年10月17日(日)
- ◆受験率公表:平成23年1月中旬
- ◆合格者発表:平成23年2月上旬本人あて郵送
- ◆診断士・診断士補の登録手続き開始:  
平成23年2月中旬
- ◆診断士・診断士補登録:平成23年4月1日

今回受験する全員の方が、  
土木鋼構造診断士、診断士補に  
合格し、社会で活躍することを  
期待しています。

**ご健闘をお祈りします！**

JSSC